

普及活動情勢報告（令和7年11月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

集客に繋がる魅力ある店舗づくりに向けて ～6次産業化支援チーム会開催～



アドバイザーの指摘を熱心に聞き入る参加者

10月20日、安芸市のメリーガーデンで農業改良普及課が6次産業化支援チーム会を開催し、株式会社岡宗農園の代表者、カフェや生産部門の社員5人、6次産業化アドバイザーなど9人が出席しました。

農業改良普及課は、日程調整や当日の点検作業を支援しました。アドバイザーからは、店舗入口の古い掲示物の撤去や店内のスポットライトの活用、トイレなどへのわかりやすい誘導など具体的な改善案が示され、会社は優先度の高い項目から取り組むことになりました。

農業改良普及課は、今後も6次産業化支援チーム会を活用し、集客強化に繋がる店舗づくりや加工品のブラッシュアップを支援していきます。

法人化に向けた1歩 ～法人志向農家への個別面談の実施～



法人化のメリットと注意点を説明する普及指導員

10月28日、農業改良普及課が安芸総合庁舎で、経営発展に向けて法人化を志向する農業者1人に個別面談しました。

法人化のメリットと注意点、法人形態等の説明を行い、農業者と法人化に向けたロードマップを検討しました。

農業者からは「今後考えるべきポイントを明らかにできた」「法人の設立手順が分かった」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も専門家と連携した所得シミュレーションや事業計画の作成など経営発展に向けて支援していきます。

集出荷場GAPの点検活動が再開 ～JA高知県安芸地区集出荷場GAP巡回～



トイレの清掃記録を確認する普及指導員

10月29日、JA高知県安芸営農経済センターが安芸地区の野菜及び果樹集出荷場9カ所で出荷場GAPの点検活動を実施し、JA職員3人と農業改良普及課職員2人が巡回しました。

農業改良普及課は、JA職員と一緒に現場の責任者から実施の状況を聞き取り、記録簿や現場の状態を確認しました。

各集出荷場では、衛生管理、作業者の安全、健康の管理、廃棄物の管理などについて確認した結果、一部の集出荷場で出荷資材の取り扱いの不備やトイレ掃除、予冷库温度管理の実施記録の不備が確認されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、農業者のGAPの取組を支援していきます。

みどり認定のさらなる推進 ～安芸支部みどり認定申請受付会～



申請を支援する普及指導員

11月6日、7日、JA高知県安芸営農経済センターと農業改良普及課が安芸集出荷場で令和7年度のみどり認定申請受付会を実施し、ナス農家16人の申請を受け付けました。

申請者と一緒に農薬使用量削減や有機物の施用等についての将来目標を確認し、環境負荷の少ない農業経営につながるよう行動計画の作成を支援することができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、みどり認定取得者を増やしていくとともに、既取得者のフォローアップを支援し、産地全体で環境負荷の少ない農業が実践できるように取り組んでいきます。

「ぼたなす」の促成栽培への挑戦！ ～ぼたなす生産者巡回～



初収穫の生産者

11月4日、室戸市で伝統野菜「ぼたなす」の促成栽培（1戸・5a）による収穫が開始されることから、関係機関の職員4人が状況確認を行いました。

室戸支所は、ベテランのナス農家を「ぼたなす」栽培に誘導し、栽培技術を指導しました。また、促成栽培の導入により夏季限定の販売から周年販売となるため、販売戦略についても関係機関で協議を進めています。

生産者からは「周りからの期待がプレッシャーですが、ぼたなすは初めての挑戦なので楽しみ」と意気込みが聞かれました。

室戸支所は、地域の宝である伝統野菜が地域経済に貢献できるよう、ぼたなすの生産振興を支援していきます。

ハスモンヨトウ捕獲大作戦 ～芸西地区の青年農業士による出前授業～



児童に説明する
青年農業士

11月17日、芸西小学校3年生31人を対象に、青年農業士4人と農業改良普及課が、害虫であるハスモンヨトウの捕殺を通じて農業に関心を持ってもらうための出前授業を開催しました。

農業改良普及課は、事前学習で芸西村の農業や害虫についての授業や、関係機関との調整等を行いました。

青年農業士からは、「地域の農業に関心を持ってもらうきっかけになっている、今度も継続していきたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、青年農業士の出前授業等の活動を支援していきます。